



日中平和友好条約35周年記念講演会

孫文と梅屋庄吉

—Transnationalな生き方を学ぶ—

100年前のアジアに生きた中国人孫文と日本人梅屋庄吉。
 二人は東洋平和、人類の平等について、語り合い、新しいアジアの秩序を夢みて、革命活動を始めた。
 二人が願ったのは、アジア人同士、助け合い、文化や経済を通じ、それぞれの民族が共生する社会であった。
 梅屋庄吉は孫文に「君は兵を挙げよ、我は財をもって支援す」と約束した。
 この盟約は、孫文が亡命中であっても、また日本と中国の関係が悪化しても、生涯揺らぐことはなかった。
 本講義では、辛亥革命の中心的役割を果たした孫文と物心両面でそれを支えた梅屋庄吉夫妻の友情とヴィジョンについて史料を通じて説明する。
 そして、二人の友情が現在に至るまで日中の懸け橋となっていることを、昨今のアジアの情勢をふまえながら説明する。

孫文と梅屋庄吉夫妻

(左から梅屋庄吉、孫文、梅屋トク)

孫文 (孫中山)

中国の革命家・政治家辛亥革命を起し、「中国革命の父」「国父」と呼ばれる

梅屋庄吉

長崎県出身の実業家
孫文の革命思想に共感し、映画事業でなした財産で孫文を支えた



講演者 小坂 文乃氏

日比谷松本楼に勤務する傍ら、梅屋庄吉の曾孫として中国宋慶齡基金会他、交流事業、研究活動に従事する。
 東京生まれ。中学、高校時代を英国で過ごし、立教大学社会学部観光学科卒。英国系企業を経て、現在日比谷松本楼代表取締役副社長。
 著作＝『革命をプロデュースした日本人』
 『ナガサキ人 梅屋庄吉の生涯』



2013年10月23日(水)
 13:30開場 14:00開演

(講演時間約90分)

入場無料

会場 立命館アジア太平洋大学 H101教室 (H棟1階)

定員 300名(先着順) ※事前申込不要

今秋の孔子学院の行事

11月9日(土)

講演会 「重光葵と中国」
 講師 清原芳治氏
 場所 大分センチュリーホテル

11月30日(土)

講演会 「中国茶文化の魅力」
 講師 森川登美江氏
 場所 大分コンパルホール

共催 | 日本中国友好協会大分支部
 お問い合わせ | 立命館アジア太平洋大学孔子学院事務局

後援 | 大分合同新聞社 NHK大分放送局

TEL 0977-78-1188 <http://www.apu.ac.jp/confucius/>

APU孔子学院

検索